

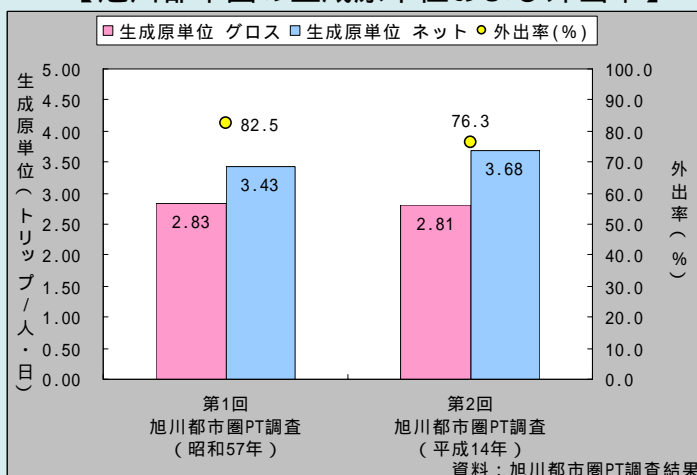
### 3 旭川都市圏の人の動き（実態調査結果より）

#### 3-1 平日1日の人の動き

都市圏の一人当たりのトリップ数は横ばい

旭川都市圏の生成原単位はネットで3.68トリップ/人・日、グロスで2.81トリップ/人・日、外出率が76.3%となっている。第1回PT調査に比べて、一人当たりの1日の平均トリップ数（グロス）はほぼ横ばいで低下はみられません。

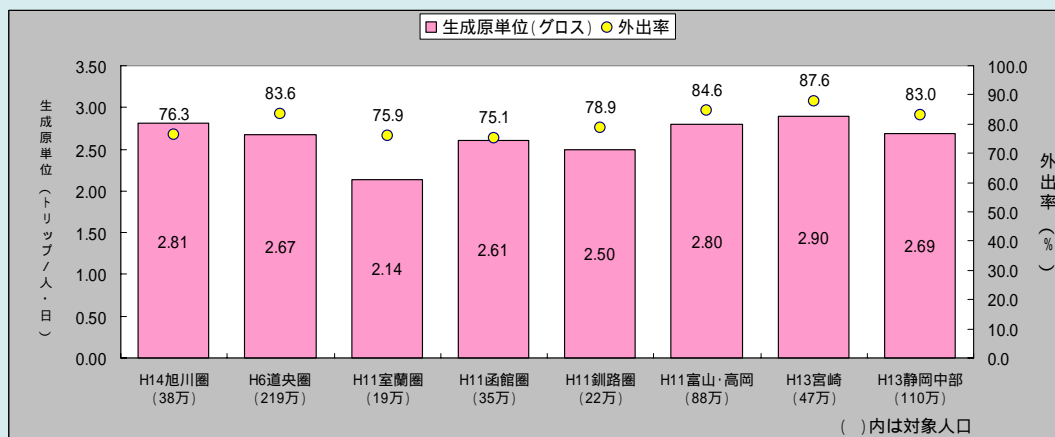
【旭川都市圏の生成原単位および外出率】



一人当たりのトリップは多いが外出率が低い

道内の他の都市圏と比較して、旭川都市圏の一人当たりのトリップ数は高くなっている。一方、道外の都市圏と比較すると、外出率が低い傾向にある。

【都市圏別生成原単位および外出率】



【用語についての解説】

生成原単位：1日一人当たりの平均トリップ数

ネット生成原単位：外出した人一人当たりで平均したトリップ数

グロス生成原単位：全人口につき一人当たりで平均したトリップ数

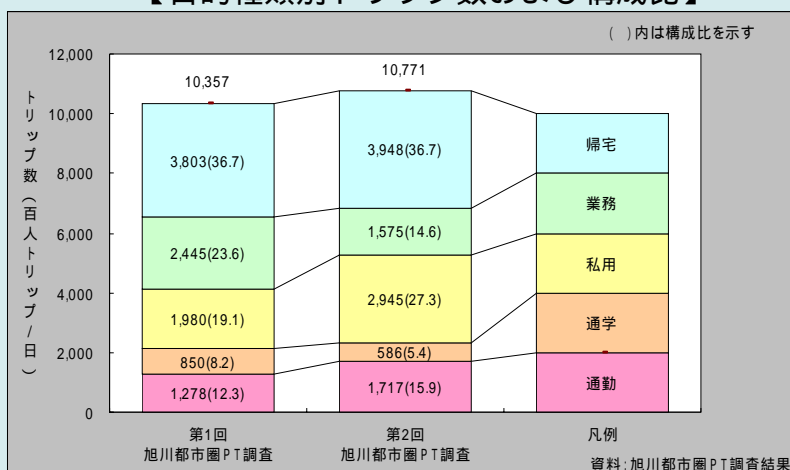
外出率：全人口（5歳以上人口）の内外出（トリップが発生）した人の割合

### 増加した私用トリップ

旭川都市圏の総トリップ数は10,771百人トリップ/日で第1回PT調査と比べて、約4%増加している。

中でも、私用目的のトリップ数が増加し、第1回PT調査と比べると、構成比を8.2ポイント増やしている。

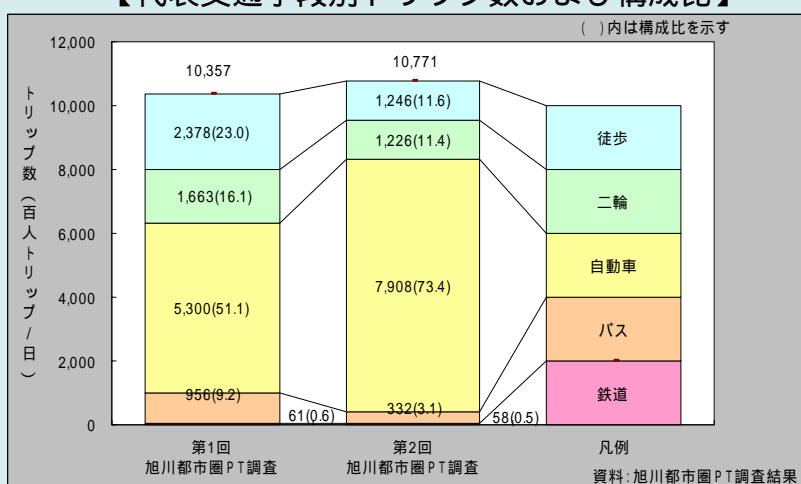
【目的種類別トリップ数および構成比】



### 利用交通手段の7割が自動車

第1回PT調査と比べると、自動車を除く各交通手段のトリップ数が減少している。自動車のトリップ数は、構成比で22.3ポイント増加している。

【代表交通手段別トリップ数および構成比】



### 【用語についての解説】

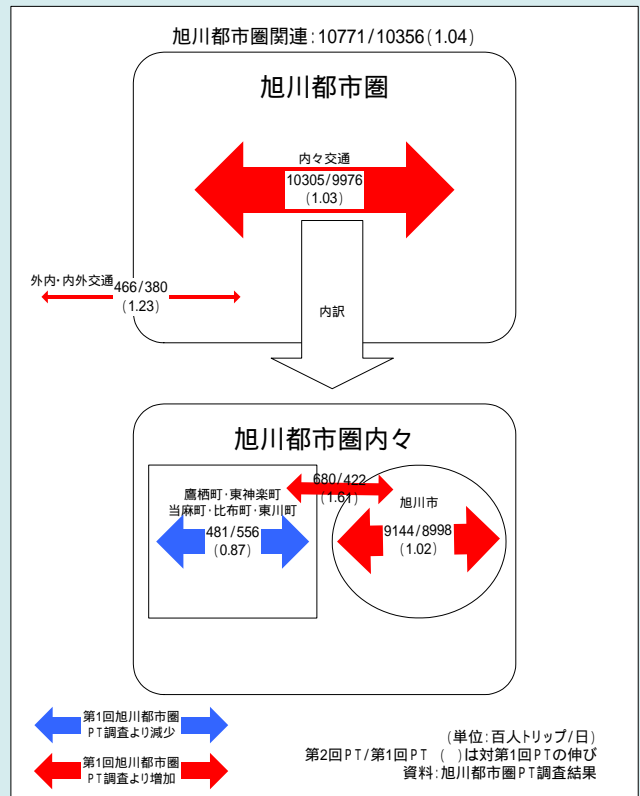
代表交通手段：1つのトリップがいくつかの交通手段で成り立っているときこのトリップで利用した主な交通手段を「代表交通手段」といいます。主な交通手段の集計上の優先順位は鉄道 バス 自動車 二輪車 徒歩の順となっている。

### 3-2 地域間の人の動き

旭川市と周辺町間の交通が増加  
 旭川都市圏関連の総トリップ数は  
 10,771百人トリップ/日となっており、  
 その内訳は内々交通が96%、外内・内外  
 交通が4%となっている。

第1回PT調査に比べて、周辺5町間の  
 交通以外は、増加している。特に、周辺  
 5町と旭川市間の交通の伸び率が1.61と  
 最も大きくなっている。

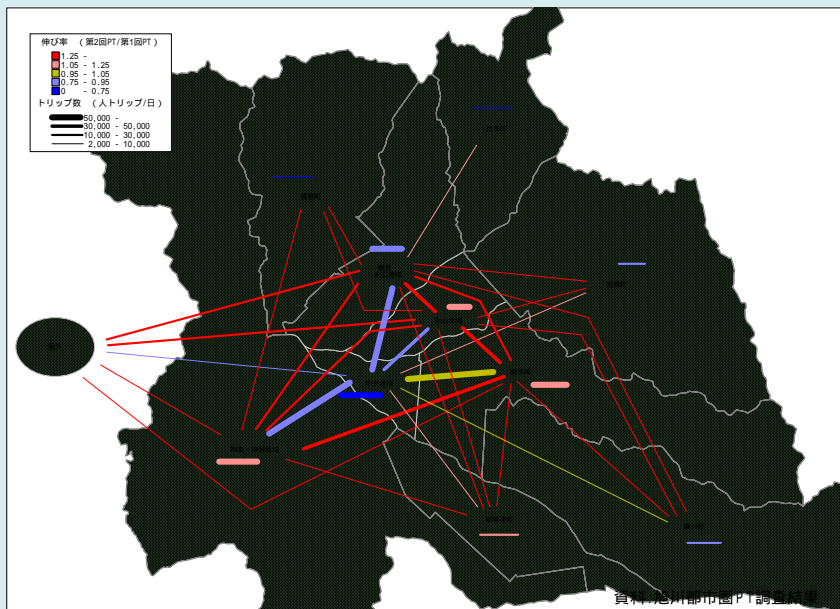
#### 【旭川都市圏関連交通】



#### 中心地区間の交通が減少

第1回PT調査結果に比べて、中央地域(旭川駅を中心とする都心部周辺Bゾーン番号旭川市01、02、03)を発着する交通が減少している。

#### 【地域間分布交通】



#### 【用語についての解説】

内々交通とは：旭川都市圏の中に出発地と到着地を持つ交通

内外交通とは：旭川都市圏に出発地があり、都市圏以外に到着地を持つ交通

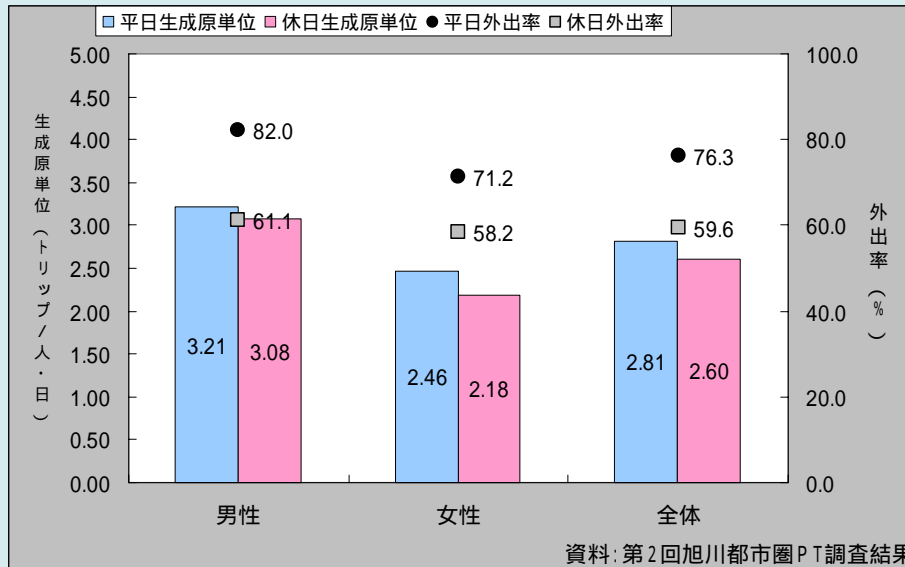
外内交通とは：旭川都市圏に到着地があり、都市圏以外に出発地を持つ交通

### 3-3 休日1日の人の動き

平日に比べ減少する休日のトリップ数と外出率

休日の生成原単位・外出率は、男女ともに平日よりも少なくなっている。

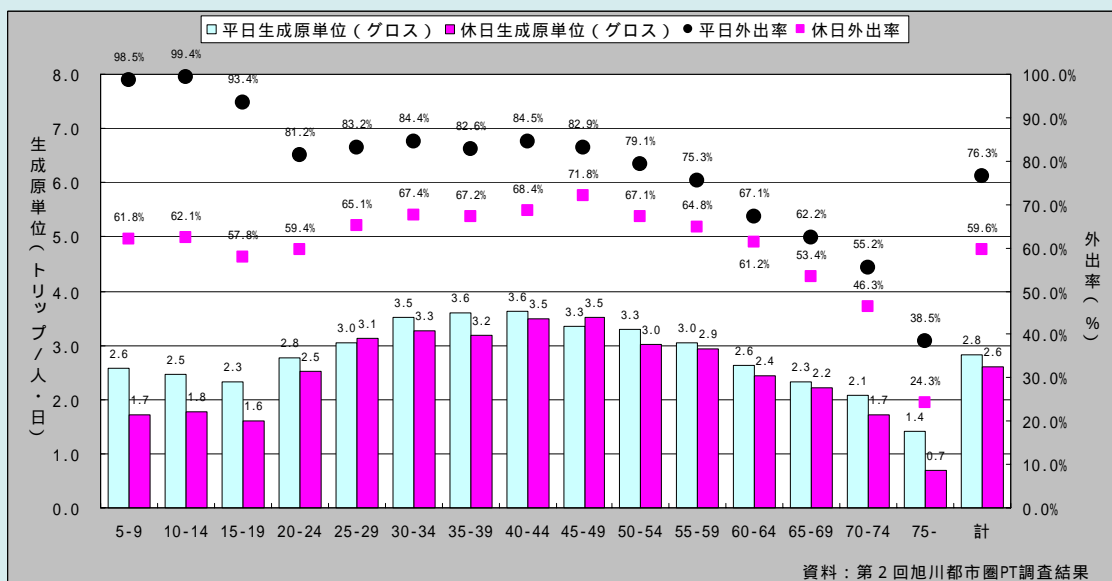
【性別生成原単位（グロス）と外出率】



休日のトリップ数が大きく減少する若年者・高齢者

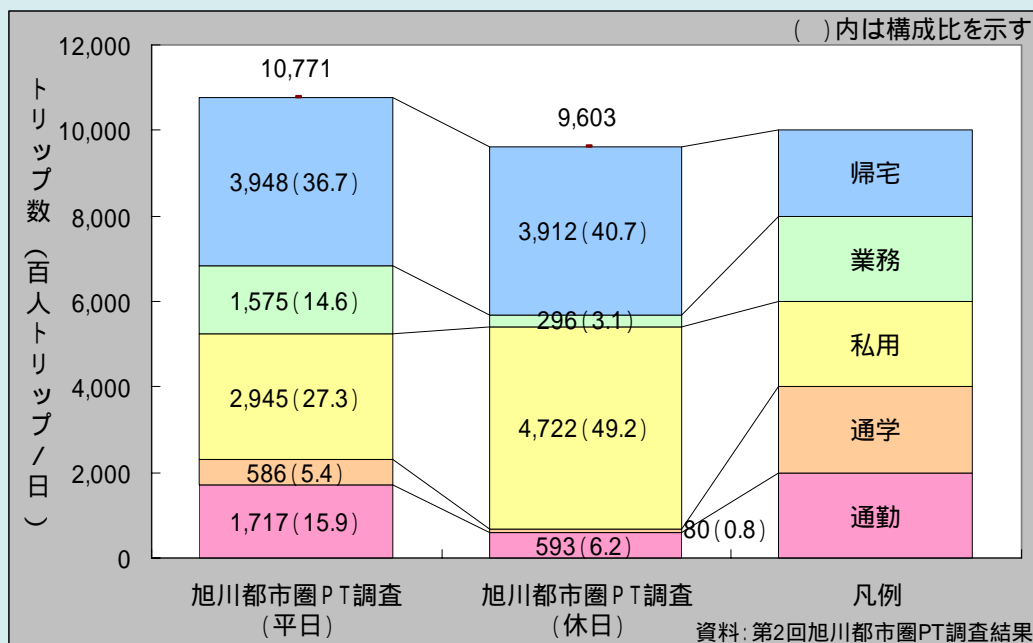
年齢階層別に平日・休日の生成原単位・外出率を比較すると20歳未満及び75歳以上の高齢者において、平日と休日の差が大きくなっている。

【年齢階層別生成原単位（グロス）と外出率】



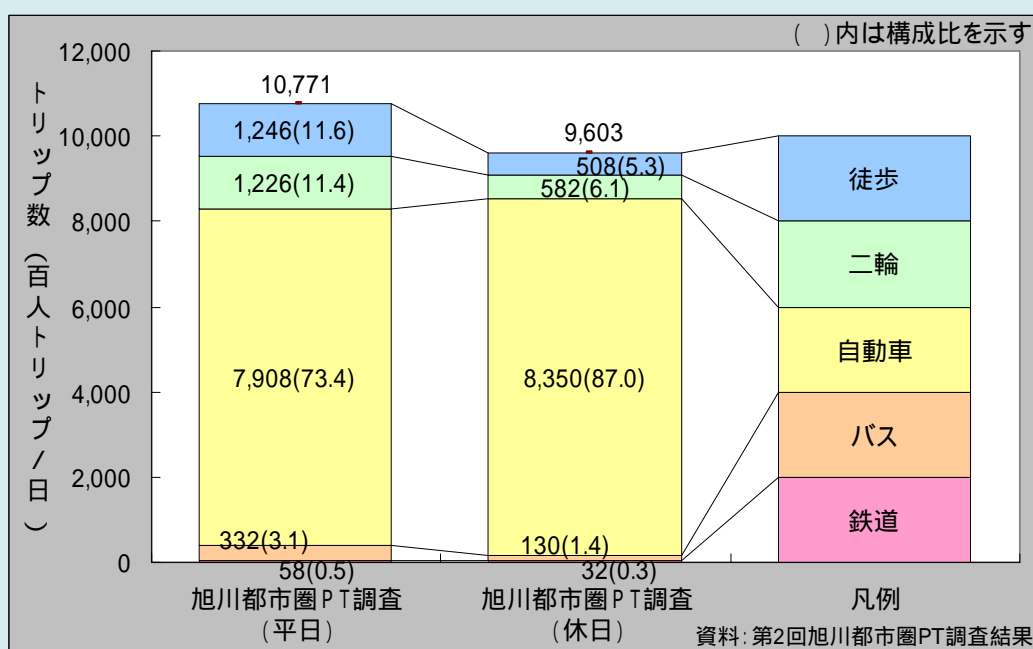
平日に比べ倍増する休日の私用交通  
 休日は平日に比べ交通量が9割程度になり、目的別に見ると、私用目的の交通量のみ、休日の交通が増加している。

【目的別トリップ数】



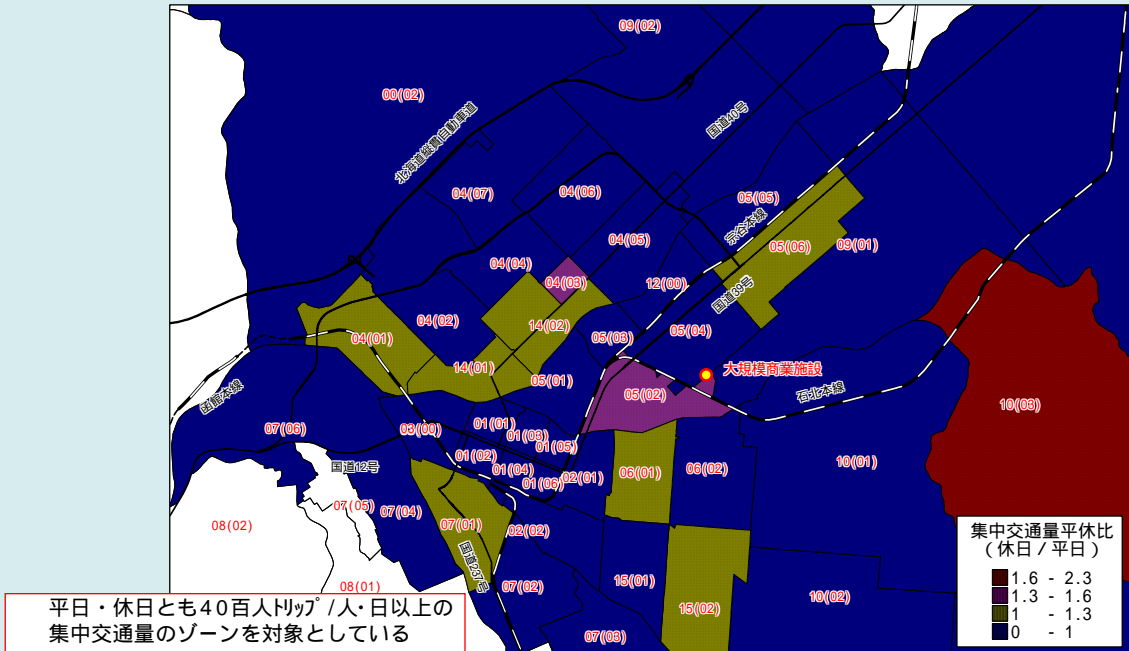
休日の交通手段は9割が自動車  
 休日は自動車利用がさらに進み、自動車を除く各交通手段の交通手段が減少するなかで、自動車利用交通量のみ増加し、構成比が約9割となる。

【交通手段別トリップ数】



郊外部商業施設が立地する地域で交通量が増加  
 地区別の平日・休日集中交通量比を比較すると、大規模商業施設が存在する  
 05(02)ゾーンが1.6倍と高い比率になっている。

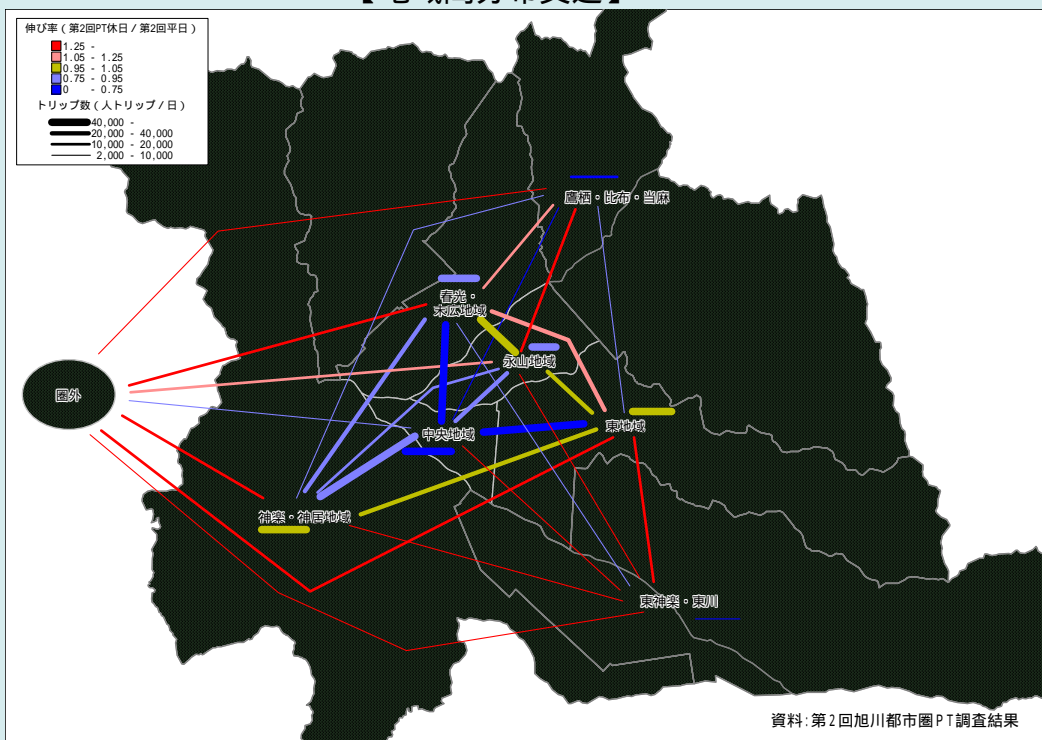
【地区別集中交通平日・休日比較】



資料: 第2回旭川都市圏PT調査結果

休日についても中心地区間の交通が減少  
 休日は、特に中央地域（旭川駅を中心とした都心部周辺）へ集中する放射方向の交通量が減少し、周辺地域と圏外関連の交通量が増加している。

【地域間分布交通】



資料: 第2回旭川都市圏PT調査結果

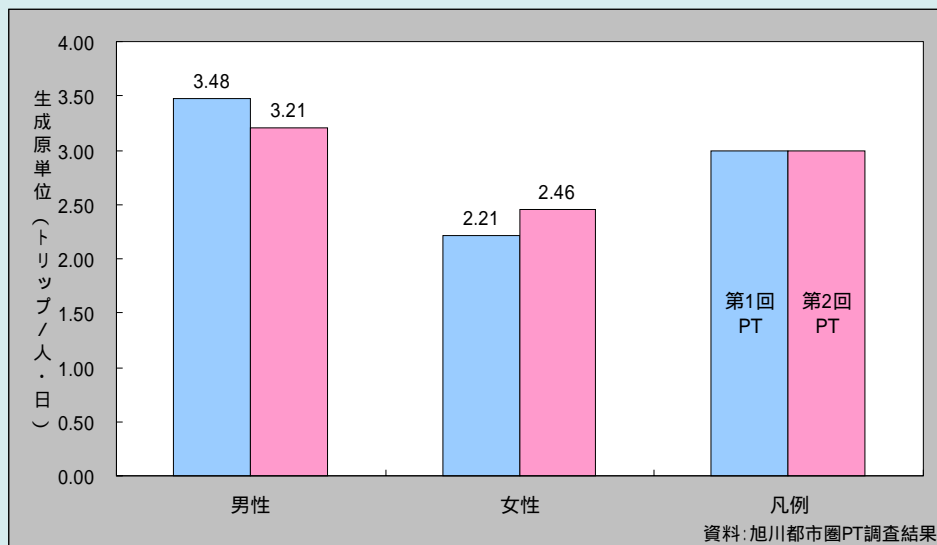
### 3-4 女性や高齢者の動き

#### 増加した女性の交通量

女性の社会進出もあり、第1回PT調査に比べて、男性の生成原単位が低下した一方で、女性の生成原単位が上昇している。

都市圏の交通量が20年間でほぼ横ばいであることから、女性の活動が活発になっているものといえる。

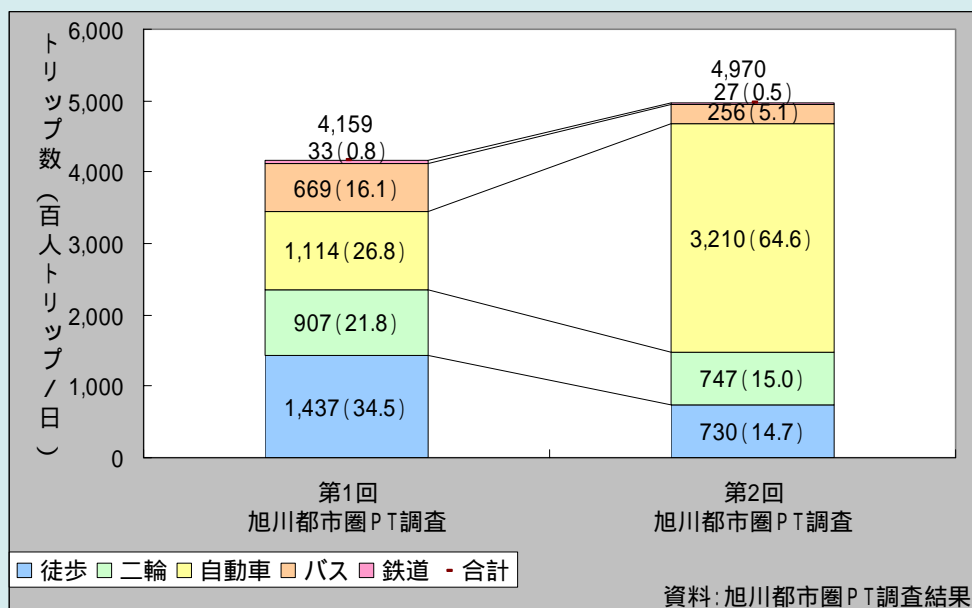
【性別生成原単位（グロス）】



#### 女性の自動車利用が3倍増

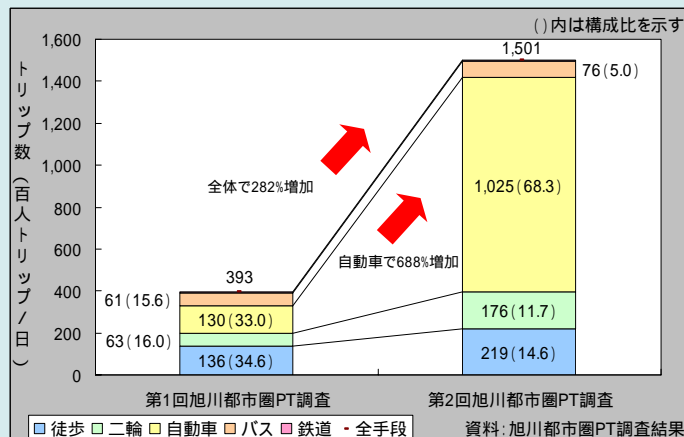
第1回PT調査に比べて、女性の交通量は増加しており、自動車の利用が約3倍に増加し、徒歩やバスの利用が半分に減少している。

【女性の代表交通手段別交通量】



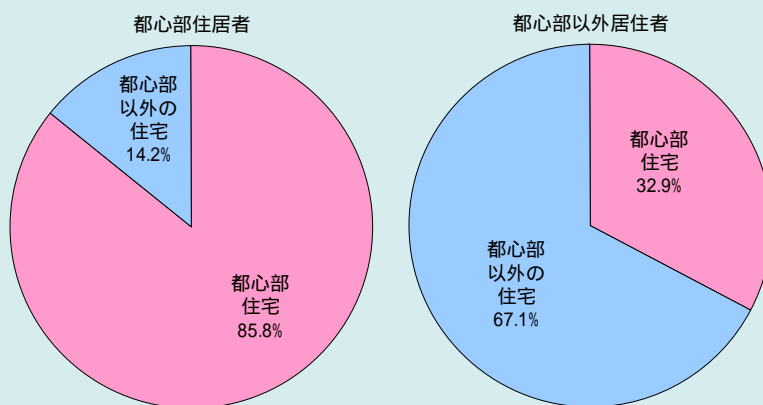
**増加する高齢者交通量**  
 第1回PT調査に比べて、交通量が大きく増加しており、特に自動車増加が著しく、高齢者人口の伸び率（162%）を大きく上回っている。

**【高齢者（65歳以上）トリップ数の推移】**



高齢化による都心居住への意識の高まり（アンケート調査結果より）  
 高齢化したときの住まい先として現在都心部以外に居住している人についても3割が都心部住宅を希望している。

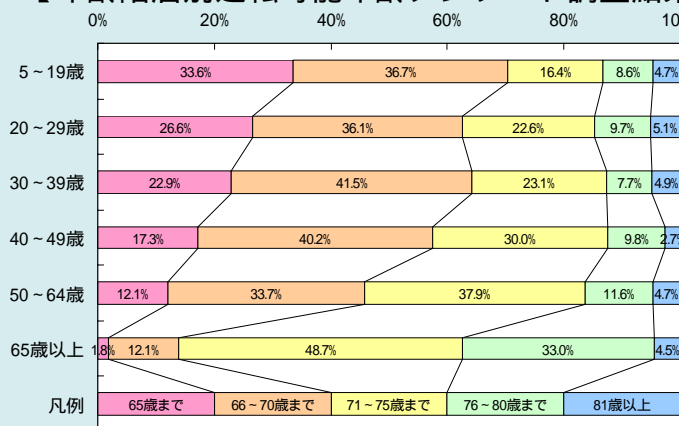
**【高齢化したときの住居希望先アンケート調査結果】**



資料：平成14年アンケート調査結果

運転可能年齢の上昇（アンケート調査結果より）  
 回答年齢が高くなるにしたがって、運転可能年齢が上昇しており、実際には高齢化しても自動車を手放すことがなく、今後も高齢者の自動車交通の増加が想定される。

**【年齢階層別運転可能年齢アンケート調査結果】**



資料：平成14年アンケート調査結果